



第1回 AIRO ビジネス・セミナー
ASEAN航空市場の現状と今後
特別報告
新型コロナウイルス感染症に関する
ASEAN地域の概況

2021年12月10日

運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所

主任研究員・次長 山下 幸男

目次

- 第1章 新型コロナ感染症に関する感染等の状況
- 第2章 新型コロナ感染症に関する入国規制の状況
- 第3章 新型コロナ感染症前後の航空実績比較
- 第4章 ASEANを巡る航空の最近の報道

0. ASEAN (東南アジア諸国連合)の概要

1. 1967年設立

2. 加盟国10カ国

3. 設立目的

- ・域内における経済成長、社会・文化的発展の促進
- ・地域における政治・経済的安定の確保
- ・地域諸問題の解決

4. 人口

661.8百万人(2020年)

5. 名目GDP

約3兆米ドル(2018年)



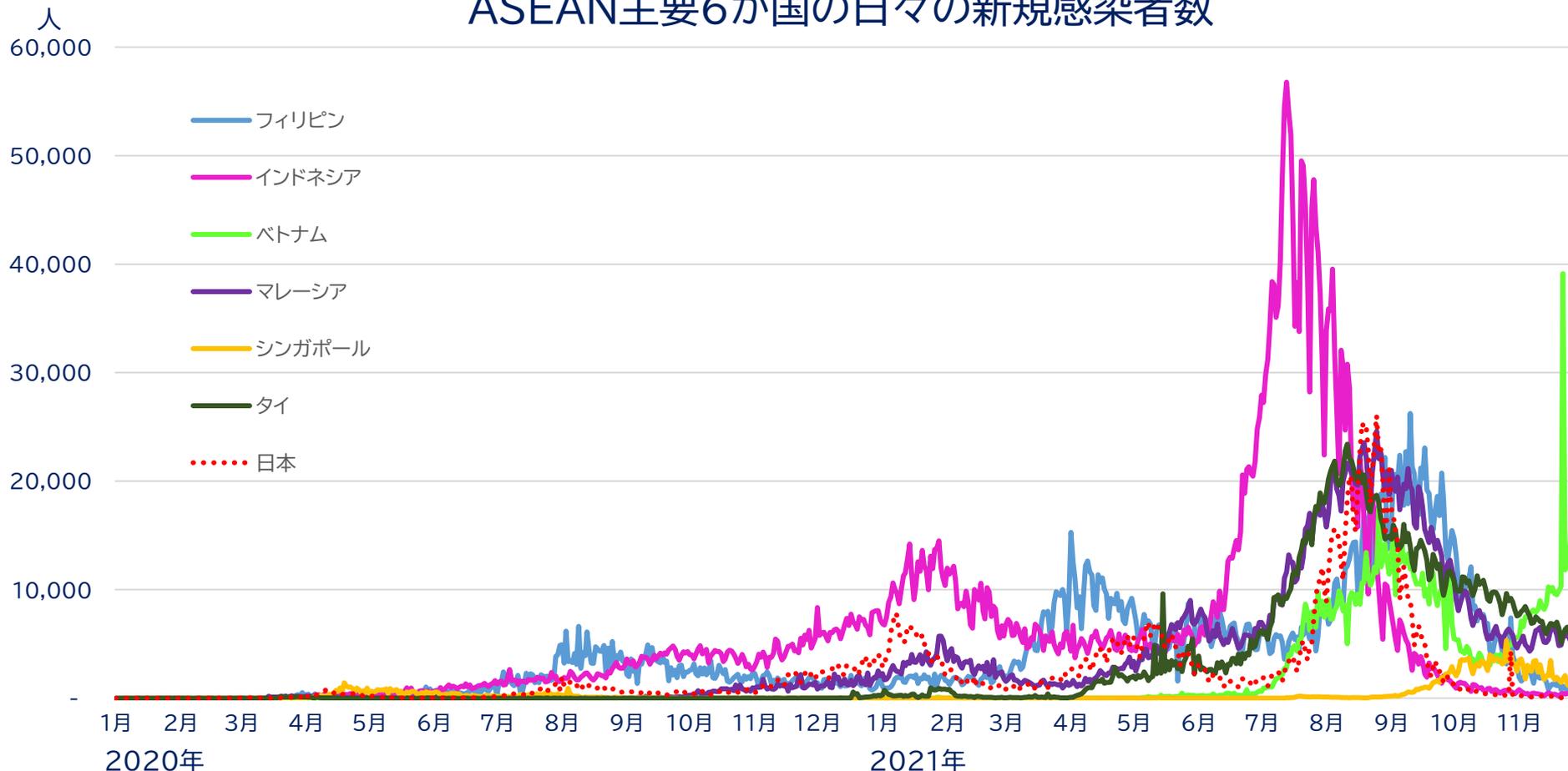
出典: 外務省 HP ASEAN(東南アジア諸国連合)概況 | 外務省 (mofa.go.jp)

出典: ASEAN HP Member States - ASEAN

第1章 新型コロナウイルス感染症に関する感染等の状況

1. ASEAN主要6か国の新型コロナウイルスの日々の新規感染者数

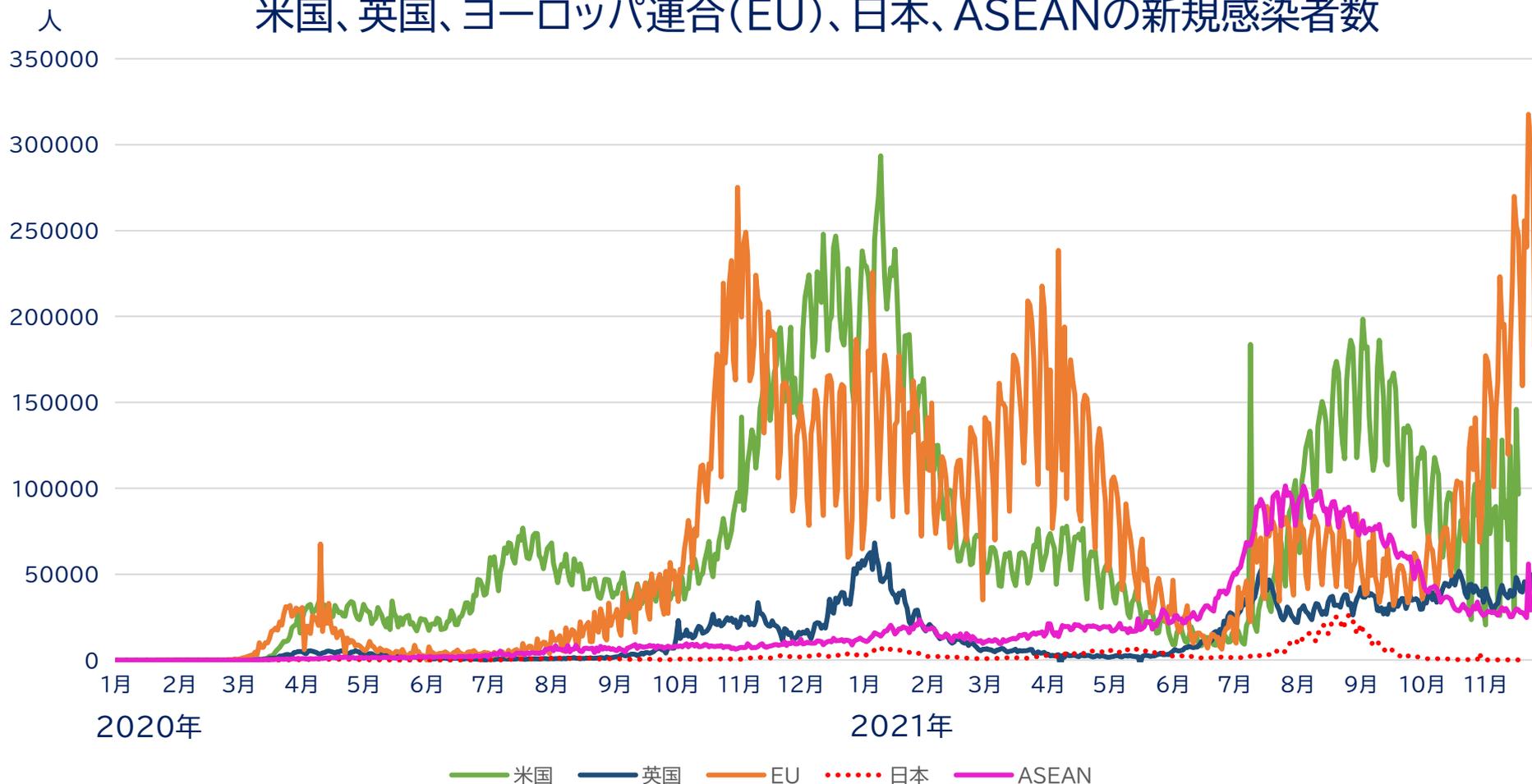
ASEAN主要6か国の日々の新規感染者数



出典:<https://covid19.who.int/WHO-COVID-19-global-data.csv>

2. 主要国・地域の新型コロナウイルスの日々の新規感染者数

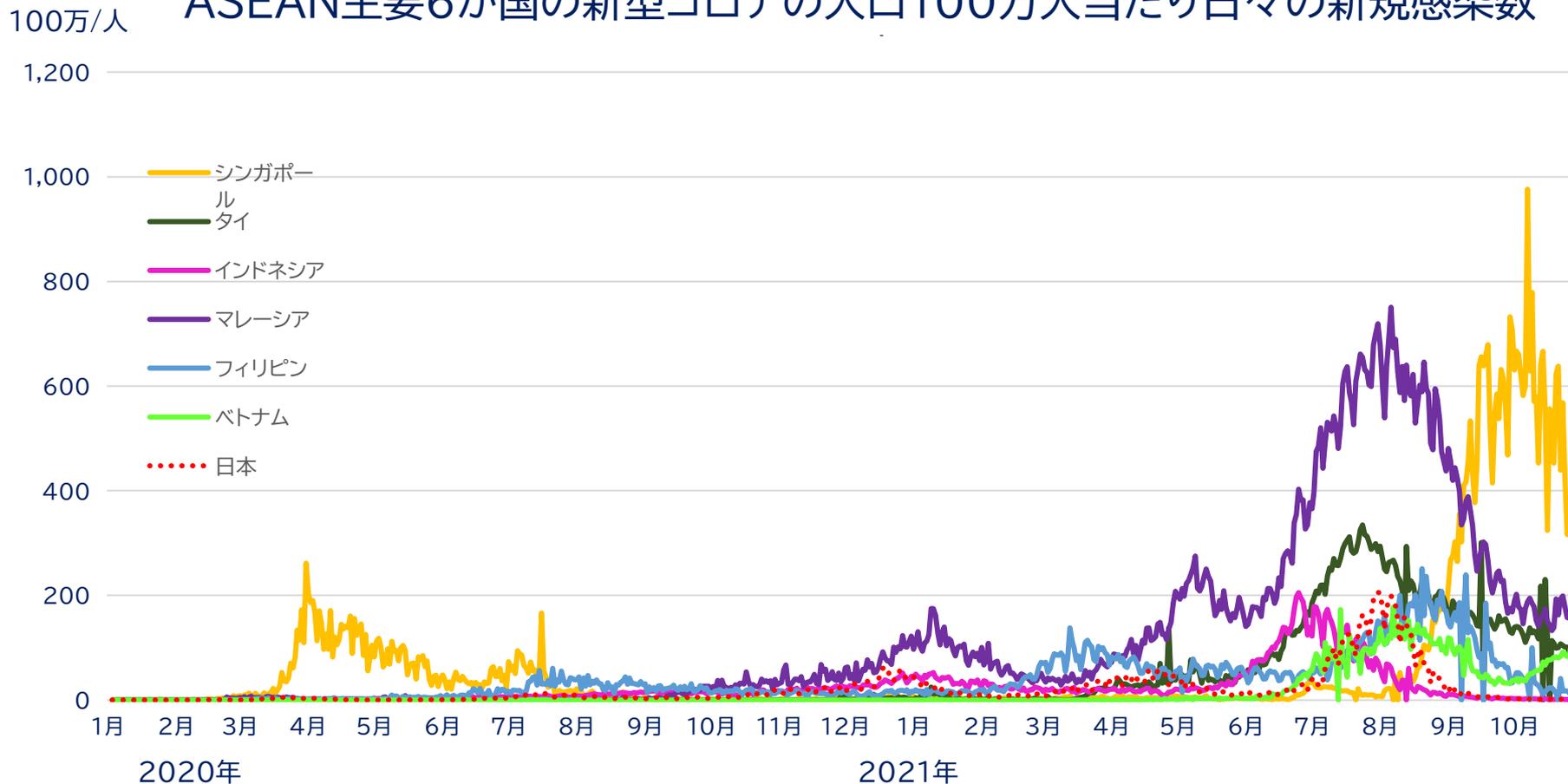
米国、英国、ヨーロッパ連合(EU)、日本、ASEANの新規感染者数



出典:<https://covid19.who.int/WHO-COVID-19-global-data.csv>
<https://covid.ourworldindata.org/data/owid-covid-data.xlsx>

3. ASEAN主要6か国の新型コロナの人口100万人当たりの日々の新規感染数の状況

ASEAN主要6か国の新型コロナの人口100万人当たり日々の新規感染数

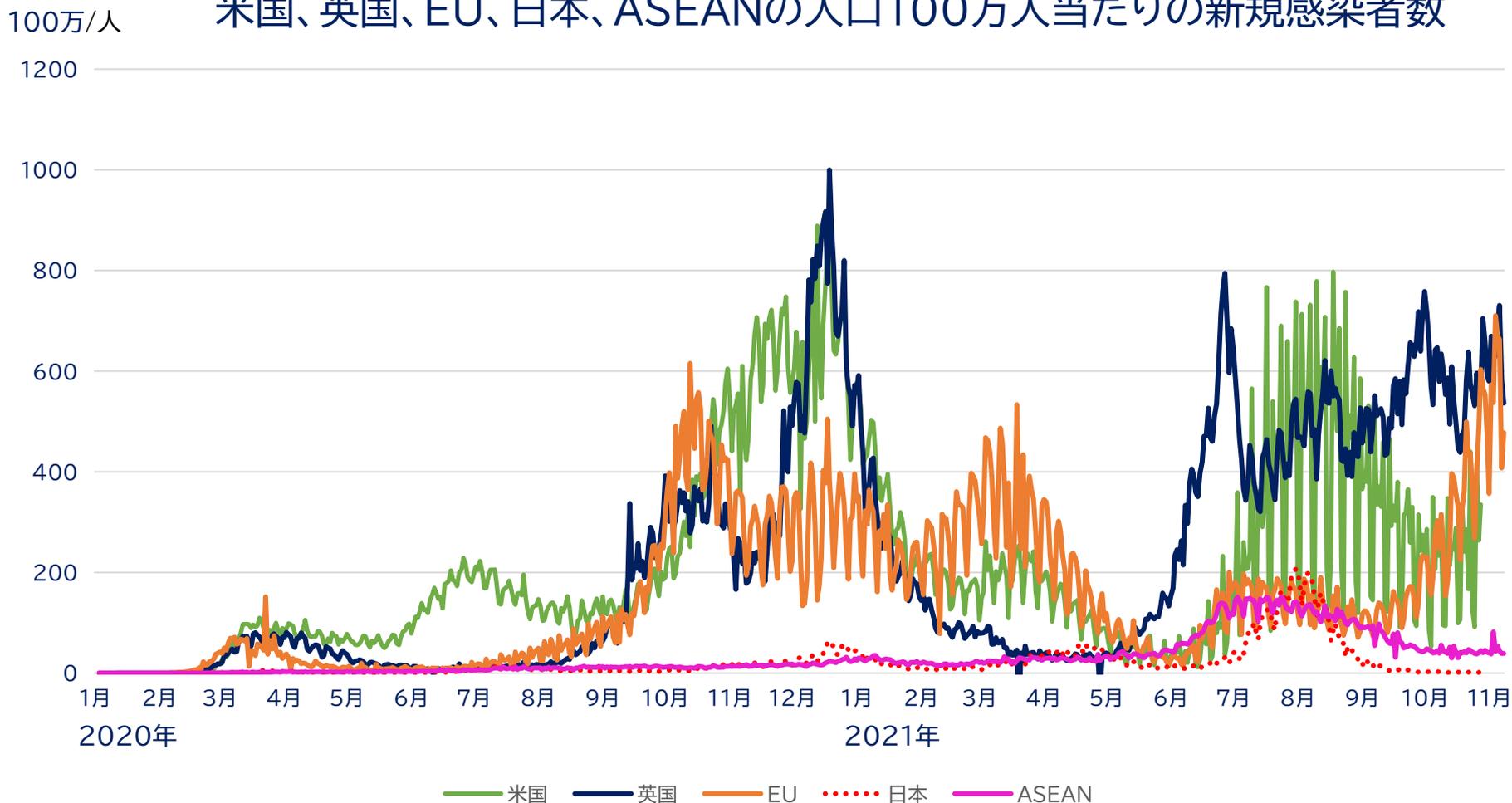


出典: <https://covid.ourworldindata.org/data/owid-covid-data.xlsx>

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

4. 主要国・地域の新型コロナの人口100万人 当たりの日々の新型コロナ新規感染数の状況

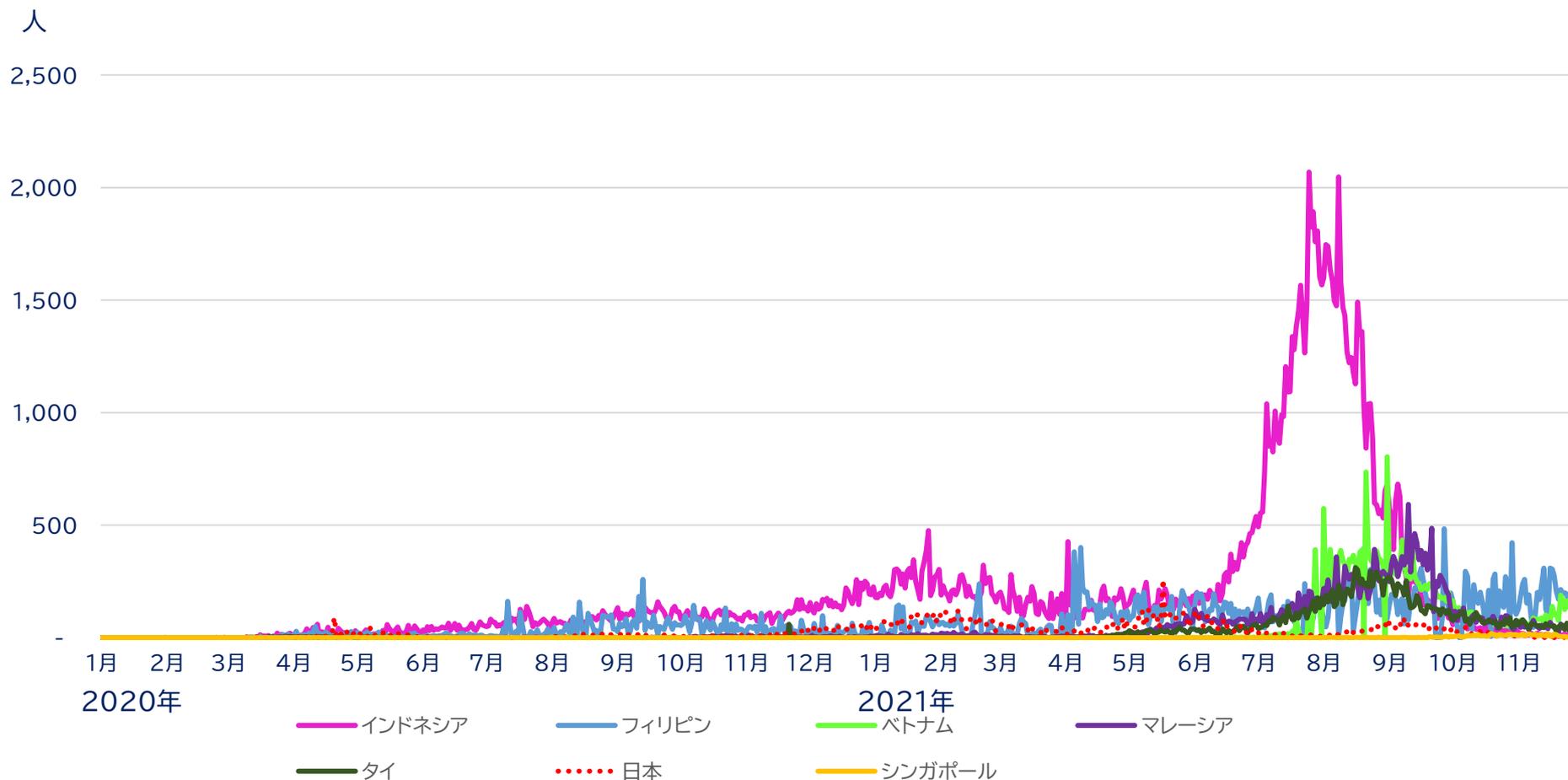
米国、英国、EU、日本、ASEANの人口100万人当たりの新規感染者数



出典: <https://covid.ourworldindata.org/data/owid-covid-data.xlsx>

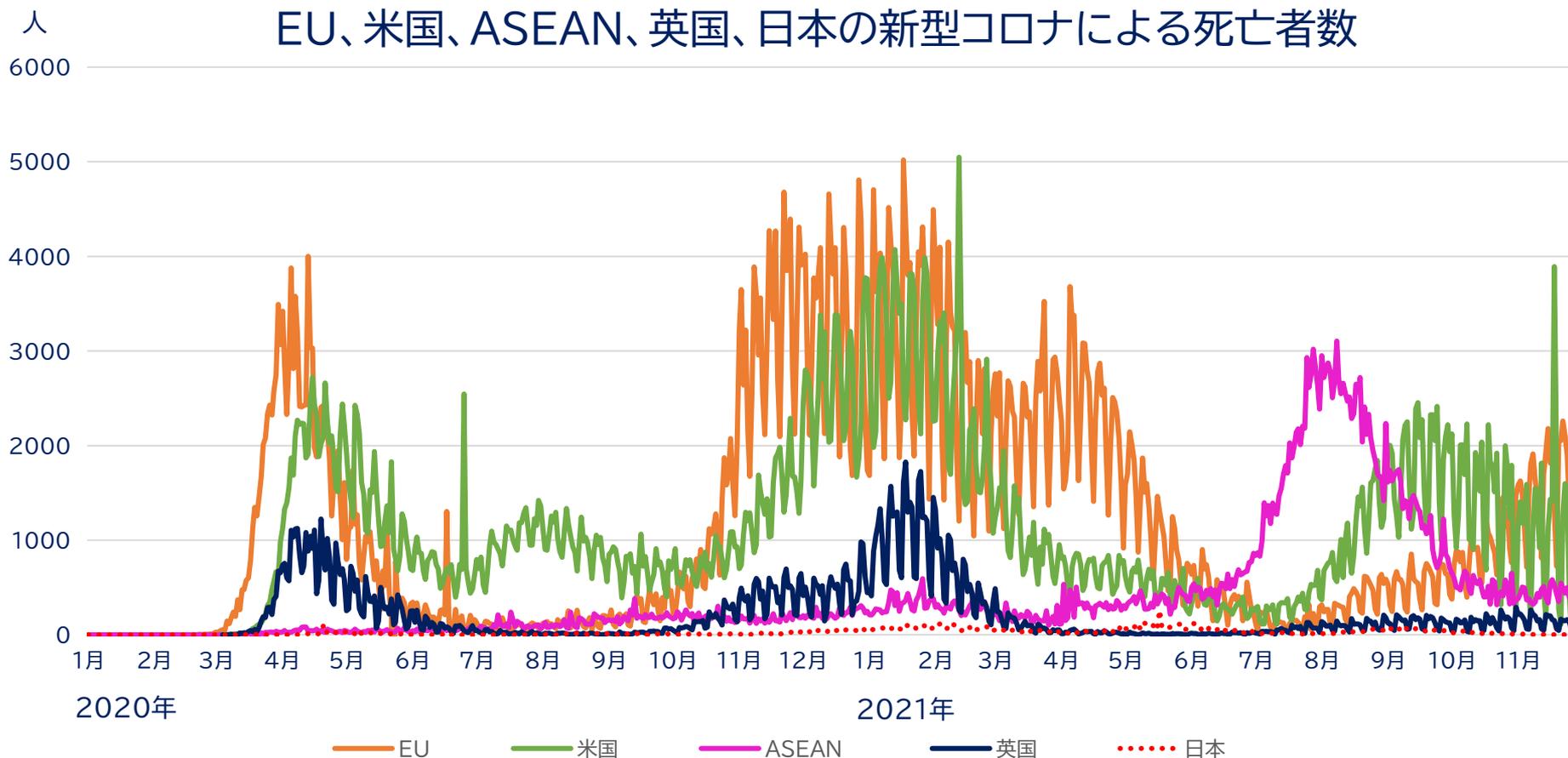
Supported by  THE NIPPON FOUNDATION

5. ASEAN主要6か国の日々の新型コロナによる死亡者数



出典:<https://covid19.who.int/WHO-COVID-19-global-data.csv>
<https://covid.ourworldindata.org/data/owid-covid-data.xlsx>

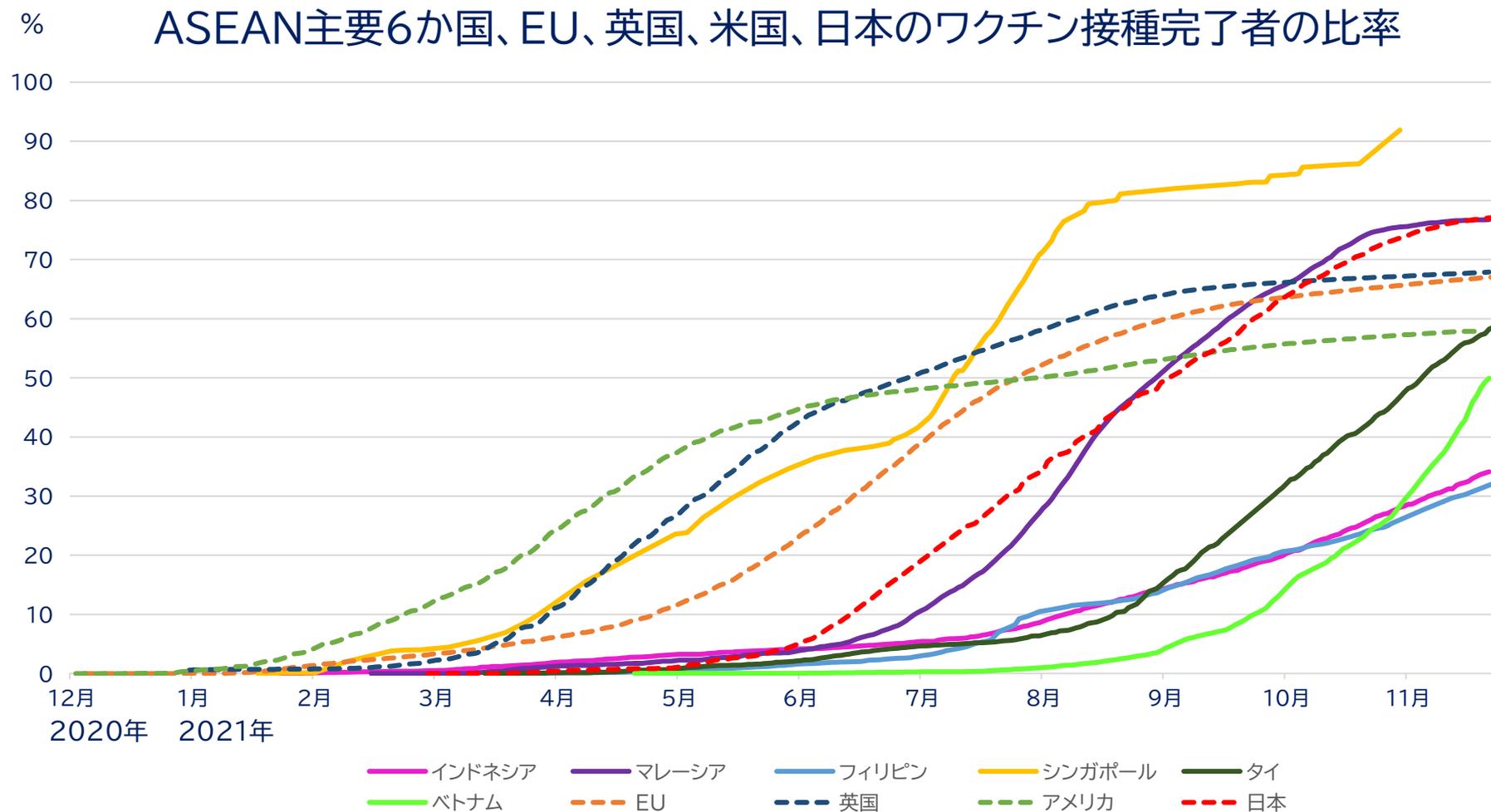
6. 主要国・地域の日々の新型コロナによる死亡者数



出典:<https://covid19.who.int/WHO-COVID-19-global-data.csv>
<https://covid.ourworldindata.org/data/owid-covid-data.xlsx>

Supported by  THE NIPPON FOUNDATION

7. ASEAN主要6か国、EUなどの新型コロナワクチン接種率



出典: <https://covid.ourworldindata.org/data/owid-covid-data.xlsx>

Supported by  THE NIPPON FOUNDATION

8. ASEAN主要6か国で承認されているワクチン種別

ワクチンの種類	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム	(参考) WHO	(参考) 米国	(参考) 日本
モデルナ(米)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ファイザー/ビオテック(米/独)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジョンソン&ジョンソン(米)	○	○	○	●	○	○	○	○	●
アストラゼネカ(英)	○	○	○	●	○	○	○	●	○
コビシールド(印)			●	●			○	●	●
シノファーム(中)	○	○	○	●	○	○	○	●	
シノバック(中)	○	○	○	○	○		○	●	
カンシノ(中)	○	○							
ZF2001(中)	○								
ベロセル(中)	○		○						
スプートニクV(露)	○		○		●	○			
スプートニクライト(露)			○						
アブダラ(キューバ)						○			
コバクシン(印)			○	●	●	○	○	●	
コボバックス(印)	○		○						

(凡例) ○:国内使用及び入国時の規制緩和/免除措置両方の対象 ●:入国時の規制緩和/免除措置のみ対象

(出典) WHO、各国政府、各国在日大使館、在各国日本大使館等ホームページ (オミクロン株確認以前の情報)

第2章 新型コロナウイルス感染症に関する入国規制の状況

1. ASEAN諸国の最近の外国人入国規制の概要 (その1)

国	ワクチン接種者 に対する隔離措置	ワクチン未接種者 に対する隔離措置	入国時の必要書類
タイ	施設:政府指定ホテル 期間:1日間	施設:政府指定ホテル 期間:10日間	①隔離施設の予約確認書 ②医療保険証 ③Thailand Pass ④PCR検査の陰性証明
マレーシア	施設:政府指定ホテル (条件を満たせば自宅も可) 期間:7日間	施設:政府指定ホテル 期間:10日間	①ワクチン接種証明書 ②PCR検査の陰性証明 ③入国許可
ブルネイ	施設:政府指定ホテル 期間:2~14日間	施設:政府指定ホテル 期間:14日間	①ワクチン接種証明書 ②PCR検査の陰性証明 ③ブルネイ首相府からの事前許可 ④ブルネイ入国者向けトラベルパス
カンボジア	施設:政府指定ホテル又は 承認ホテル 期間:免除 (到着日の検査結果が陰 性の場合は隔離不要)	施設:政府指定ホテル又は 承認ホテル 期間:14日間	①ビザの取得 ②ワクチン接種証明書 ③保証や招待に関する証明書 ④PCR検査の陰性証明 ⑤隔離ホテルの予約確認書 ⑥COVID-19健康保険証書
ベトナム	施設:政府指定ホテル 期間:7日間 (その後7日間は健康観察)	施設:政府指定ホテル 期間:14日間 (その後14日間は健康観察)	①隔離施設(ホテル)と航空便の手配 ②入国承認等の申請・取得 ③ビザの取得 ④加入保険の確認 ⑤PCR検査の陰性証明 ⑥医療申告
フィリピン	施設:政府指定ホテル 期間:最低5泊6日(その後14 日経過まで自宅隔離)	施設:政府指定ホテル 期間:最低7泊8日(その後14 日経過まで自宅隔離)	①ワクチン接種証明書 ②PCR検査の陰性証明 ③隔離ホテルの予約票

注: 2021年12月上旬に日本から入国する場合を想定した入国規制の概要であり、精緻なものではない。

参考:NNA <https://www.nna.jp/news/result/2265927#%E5%85%A5%E5%9B%BD%E8%A6%8F%E5%88%B6>

日本橋夢屋 <https://www.tokutenryoko.com/news/passage/6755>

第2章 新型コロナウイルス感染症に関する入国規制の状況

2. ASEAN諸国の最近の外国人入国規制の概要 (その2)

国	ワクチン接種者 に対する隔離措置	ワクチン未接種者 に対する隔離措置	入国時の必要書類
シンガポール	施設: 政府指定ホテル又は 自宅 期間: 7日間	入国不可	①ワクチン接種証明書 ②PCR検査の陰性証明 ③長期滞在パス
インドネシア	施設: 政府指定ホテル 期間: 10日間 (その後14日経過まではホテル 又は自宅にて隔離を推奨)	入国不可	①ワクチン接種証明書 ②PCR検査の陰性証明
ラオス	入国不可	入国不可	-
ミャンマー	施設: 政府指定ホテル 期間: 10日間 (ミャンマー人帰還用臨時便への同 乗に限り渡航可)	施設: 政府指定ホテル 期間: 10日間 (ミャンマー人帰還用臨時便への同 乗に限り渡航可)	①PCR検査の陰性証明
(参考)	ワクチン接種者 に対する隔離措置	ワクチン未接種者 に対する隔離措置	入国時の必要書類
日本	11月30日~1か月間、外国 人の新規入国を原則禁止	11月30日~1か月間、外国 人の新規入国を原則禁止	-
米国	隔離免除(入国後3~5日以 内の検査・健康観察を推奨)	入国不可	①ワクチン接種証明書 ②PCR検査の陰性証明

注: 2021年12月上旬に日本から入国する場合を想定した入国規制の概要であり、精緻なものではない。

参考: NNA <https://www.nna.jp/news/result/2265927/#%E5%85%A5%E5%9B%BD%E8%A6%8F%E5%88%B6>

日本橋夢屋 <https://www.tokutenryoko.com/news/passage/6755>

3. 外国人入国規制緩和に積極な姿勢の国の例

(2021年12月7日時点)

国	入国規制	参考
タイ	<ul style="list-style-type: none"> 制度名: テスト・アンド・ゴー (Test & Go) 対象: 63か国 ワクチン接種者 概要: 政府指定ホテルで1泊しPCR検査陰性で解放 	<ul style="list-style-type: none"> PCR検査に比較し判定時間が短い抗原検査に移行する方向であったがオミクロン株で見送られた
	<ul style="list-style-type: none"> 制度名: サンド・ボックス (Sand Box) 対象: 63か国以外の国 ワクチン接種者 概要: バンコク他の特定地域で政府指定ホテルに7日間宿泊し、指定された一定範囲は活動自由 その後のPCR検査陰性で解放 	<ul style="list-style-type: none"> 政府指定ホテルでの隔離を7日から間から5日間に短縮する方向であったがオミクロン株で見送られた
	<ul style="list-style-type: none"> 対象: 南アフリカ等8か国を除く全ての国からのワクチン未接種者 概要: 政府指定ホテルで10泊11日隔離 2回のPCR検査陰性で解放 	
シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> 制度名: ワクチン接種済者用トラベルレーン (VTL) 対象: 豪、米、加など18か国 ワクチン接種者 概要: 必要回数ワクチン接種をした者は、入国時のPCR検査陰性で解放 	<ul style="list-style-type: none"> 解放後、2、4、6、8日目に、3、7日目に政府指定ホテルでART自己検査が必要
	<ul style="list-style-type: none"> VTL適用以外 (ワクチン接種者前提) カテゴリー I ~ IV に応じ異なる条件を設定 例えば、カテゴリー I の場合 <ul style="list-style-type: none"> 対象: 中国本土、香港、マカオ、台湾、 概要: 短期滞在旅行者用で、入国時のPCR検査陰性で解放 例えば、カテゴリー IV の場合 <ul style="list-style-type: none"> 対象: カテゴリー I ~ III の国以外の者 概要: 政府指定ホテルで10日間隔離し、PCR検査陰性で解放 	<ul style="list-style-type: none"> 21年12月4日深夜からガーナ、マラウイ、ナイジェリアのアフリカ3カ国からの外国人入国を停止との報道 ワクチン未接種者は入国禁止

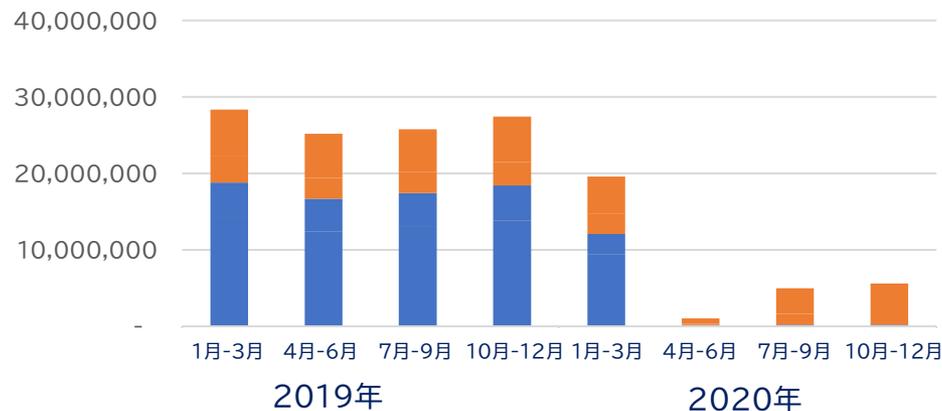
4. 外国人入国規制緩和に慎重な姿勢の国の例

(2021年12月7日時点)

国	入国規制	参考
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> 査証、APECビジネストラベルカード、滞在許可(ITAS)・定住許可(ITAP)保有者(PCR検査陰性証明/ワクチン接種証明の提示)以外は、原則、インドネシアに入国禁止。 入国後、政府指定ホテルで7日間隔離。空港到着時および6日目に自己負担でPCR検査を実施。7日間の隔離後、7日間の自主隔離を推奨。 	
ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> 外国の外交官、専門家、投資家、高技能労働者、ベトナムで勉強する生徒及び学生には入国を許可するものの、観光客の入国は認めない。 ワクチン接種者:政府指定ホテルに7日間隔離、その後、PCR検査陰性で解放。その後も7日間健康観察。 ワクチン未接種者:政府指定ホテルに14日間隔離、その後、PCR検査陰性で解放。その後も14日間健康観察。 	2020年3月21日以降、 日本国民査証免除停止
日本	<ul style="list-style-type: none"> 外国人は基本的に入国禁止:2021年1月14日以降、外国人の新規入国は原則停止し、特段の事情がある場合に限り新規入国を承認。 外国人の新規入国に係る新制度およびワクチン接種証明書保持者に対する入国後4日目からの行動制限(21年11月8日実施)の見直し:受入責任者から業所管省庁への申請の受付及び当該業所管省庁の帰国・入国前の事前の審査を2021年12月31日まで停止 一部の国・地域からの入国者の自宅等待機期間緩和(14日間→最大10日間にまで縮減)および入国者の施設待機の緩和措置(該当者の強制隔離等の緩和)を2021年12月31日まで停止 	

1. ASEAN主要空港の航空旅客の実績

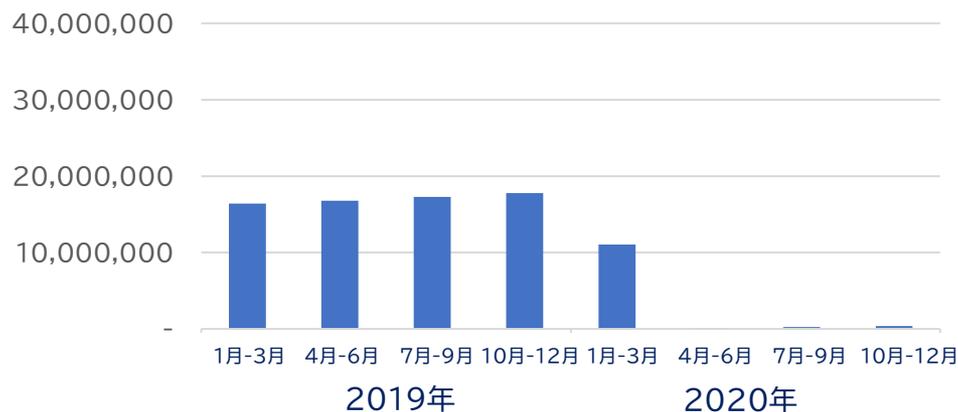
タイ スワンナプーム空港とドンムアン空港 (国際・国内)
2019年-2020年



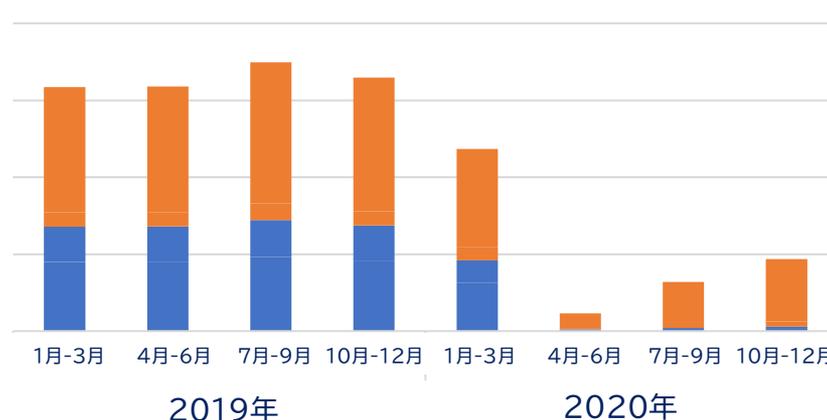
フィリピン ニノイ アキノ空港 (国際・国内)
2019年-2020年



シンガポール チャンギー空港 (国際・国内)
2019年-2020年

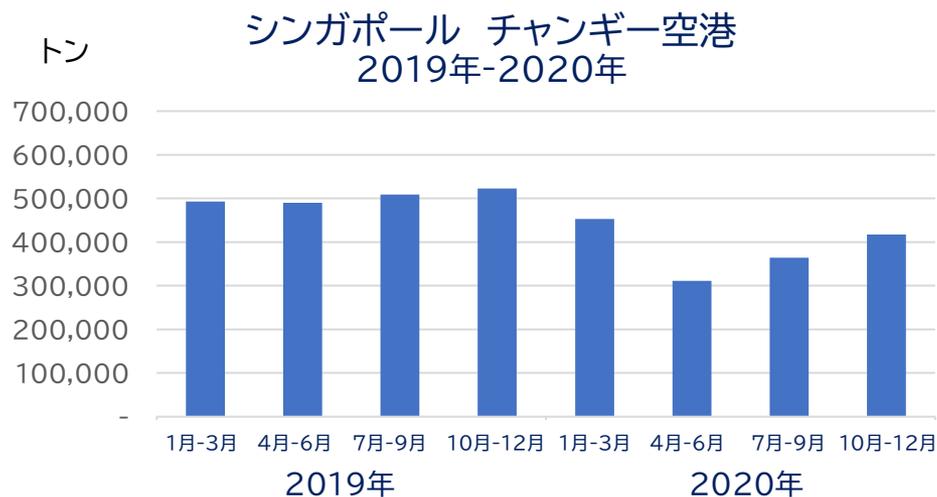
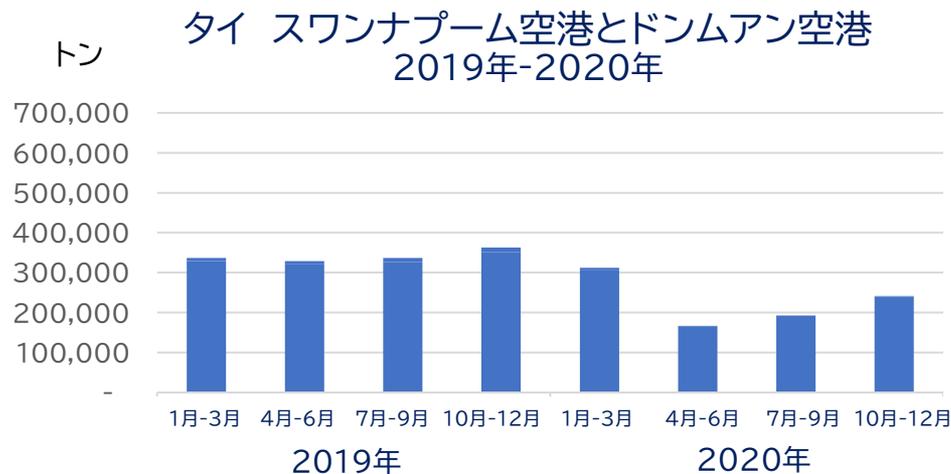


参考：日本 成田空港と羽田空港 (国際・国内)
2019年-2020年



出典：<http://investor.airportthai.co.th/transport.html>
<https://www.miaa.gov.ph/index.php/reports/operational-statistics>

2. ASEAN主要空港の国際航空貨物の実績



出典：<http://investor.airportthai.co.th/transport.html>
<https://www.miaa.gov.ph/index.php/reports/operational-statistics>

第4章 ASEANの航空を巡る最近の報道 (その1)

- ・ ガルーダ航空：貨物輸送を欧米16拠点に拡大 (10月11日)
 - ・ エアアジア：グループ子会社の貨物部門 ボーイング737導入へ (11月08日)
 - ・ タイ航空：貨物便の運航で870億円借り入れ (11月15日)
-
- ・ タイライオンエア：国際便の再開見据え機材増強 (10月11日)
 - ・ バンブーエアウェイズ：米定期便の運航会社に指定へ (10月15日)
 ：ハノイ＝ロンドン直行便の開設 (11月02日)
 - ・ シンガポール航空：米UAと共同運航へ (11月02日)
 - ・ フィリピン：外支出制限緩和を受けた観光回復に向け地場の航空各社増便 (11月08日)
 - ・ シンガポール航空：運航正常化進む (11月17日)
 - ・ マレーシア航空とシンガポール航空：共同運航11月29日から再開 (11月19日)
 - ・ スーパー・エア・ジェット：バリとロンボクにLCCとして新規就航、尼国空港
 運営会社アンカサ・プラ1 ファイク社長(新型コロナ感染下での新規路線就航に
 感謝するとし、観光経済の回復につながると期待 (11月23日)
 - ・ ベトナム航空：米直行第1便を運航 (11月30日)
 - ・ ベトジェット：モスクワ直行便を2022年運航 (12月06日)

(注：日付は報道された日)

第4章 ASEANの航空を巡る最近の報道 (その2)

- ・ エアアジア・グループ: タイで食事宅配事業に参入 (8月19日)
クアラルンプールで配車サービス開始 (8月23日)
マレーシアの地方3都市で食品宅配事業に進出 (8月23日)
- ・ マレーシア航空・グループ: ペナン州で配車サービスを開始 (11月02日)
- ・ エアアジア・グループ: マレーシアの主要7都市でアプリを利用した小荷物宅配サービス開始 (11月25日)

- ・ マレーシア: 隣国や欧米との入国規制緩和への動きだしており、往来の正常化に向けて
一歩前進 (11月10日)
- ・ タイ: アーコム財務大臣: 開国で海外旅行者を増やし、観光産業の雇用創出に努め、タイ
経済を回復させる (11月30日)
- ・ タイ: ピパット観光・スポーツ大臣: オミクロン変異株は未知であるも開国方針に変更はない
(12月01日)
- ・ カンボジア: 民間航空局は海外航空会社6社の12月以降のカンボジア線運航再開に
向けた認可申請を11月29日から受付開始 (12月02日)
- ・ タイ: プラユット首相: オミクロン株を確認もまだ国境を閉鎖することはなく、当面は経済
と安全のバランスを取る (12月07日)

(注: 日付は報道された日)

まとめ

- ASEAN諸国の日々の新規感染者数は、米国やEUなどと比較すると全般的に少ないが、発生時期は国ごとに若干の違いがある。
- 100万人当たりの日々の新規感染者数で比較すると、新規感染者数の多いインドネシアやベトナムに代わり、シンガポールやブルネイが深刻であるというように様相を異にする。
- ワクチン接種率の高いシンガポールやマレーシアは、ワクチン接種率が低い他の国よりも100万人当たりの新規感染者数は多くなっている。しかし、死亡者数ではASEAN諸国の中で低く抑えられている。
- 新型コロナ発生後に航空旅客の実績が大幅に落ち込んでいる一方、国際航空貨物の実績は落ち込んではいないものの荷動きは堅調である。報道によれば、ASEANの航空企業も航空貨物への対応強化の他、グループ会社による航空以外の事業への参入がみられる。

参考1. 我が国の「ワクチンパスポート」導入における課題と対応

【7/12提言時資料抜粋】及び 進捗検証結果の概要【11/22提言追補】

課題① 「ワクチンパスポート」の早期デジタル化 (提言①関係)

- ・ (提言で求めた対応)「ワクチンパスポート」(ワクチン接種や検査結果の証明書)の早期デジタル化
⇒【進捗検証】 ○:概ね提言の方向に沿って進展しているが、一部対応の深化等更なる改善を望む

課題② 「デジタルワクチンパスポート」のアウトバウンド導入 (提言②関係)

- ・ (提言で求めた対応)アウトバウンドへの「デジタルワクチンパスポート」の早期導入
⇒【進捗検証】 ◎:提言の方向に沿って着実に進展中

<提言追補版ホームページ>
https://www.jttri.or.jp/research/digital_vaccine_passport.html

課題③ 「デジタルワクチンパスポート」の開発、導入プロセス (提言③関係)

- ・ (提言で求めた対応)開発・導入等は民間の動きに委ね、国は規格作成や標準化、互換性確保等を支援
(同)個人データ管理は公的主体とし、移動時の企業や関係機関の利用は必要最低限に抑制
⇒【進捗検証】 ○:概ね提言の方向に沿って進展しているが、一部対応の深化等更なる改善を望む

課題④ 入国時の検疫対応等 (提言④関係)

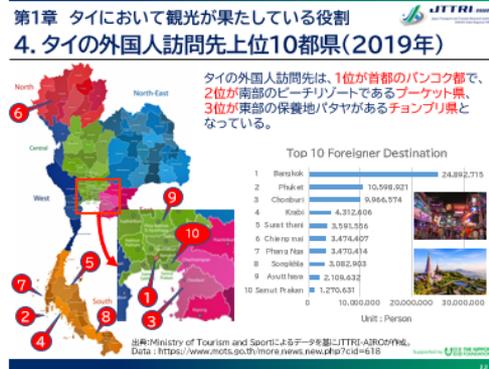
- ・ (提言で求めた対応)極力主要国(当面は統一性の高い米欧)との制度の調和(ハーモナイゼーション)を行う
⇒【進捗検証】 △～×:提言の方向に沿って一部進展はあるが、まだ大きな課題が残り一層の改善を要する
1)米欧に加え一部アジア諸国でも「有効なワクチン接種者」には入国後隔離を要求しておらず、過剰規制のおそれあり
※観光客等は10日隔離が継続。出張者等は政府の承認を条件に3日隔離へ緩和されたが(11/8から)、行動への制約が多く(通勤用鉄道やバスは使用不可、等)承認取得手続きも煩雑(日々の行動を逐一事前申請、3週間前の申請を目安、等)。
2)出張者等の査証取得義務(外国人)や日本独特の入国上限規制(日本人含め1日3.5千人⇒11/26から5千人)が残り、また、外務省の海外旅行安全情報では米欧含む160か国を対象に渡航中止勧告を発出中。
3)緩和対象となるワクチンの範囲がWHO(国際保健機構)や米国及び一部アジア諸国と比して狭く、インバウンド客のかなりの部分が緩和対象外となるおそれ(中国製ワクチン接種者等)。
なお、ワクチン接種証明書への医師署名義務や陰性結果証明書への検査方法明記義務等も課題。

参考2: 2021年10月15日 開催済 運輸政策コロキウムの紹介

第144回 運輸政策コロキウム バンコクレポート
～スタートアップシリーズその1～

コロナ禍におけるタイの観光の現状と 我が国のインバウンド観光復活に向けた示唆 ～コロナ鎖国を打ち破り、国を再び開くということ～

「第1章 タイにおいて観光が果たしている役割」より



「第3章 観光復活に向けタイで考えたこと」より

第3章 まとめ～再開国に向けた提言～

項目	提言
入国手続	① 心理的ハードルを低くするため、簡素な仕組みを目指すべき ② 言語、デジタル等のバリアを乗り越えるため、多言語化、代理申請等の方策を講じる ③ 非感染証明に代え、ワクチンパスポートの導入を
隔離政策	① 被隔離者の選択と隔離施設間の競争が生じる仕組みの構築 ② 観光資源を活かした隔離施設の導入 ③ ワクチン接種完了者に対する隔離期間の短縮(隔離なしが理想) ④ 隔離期間短縮(免除)を認める接種ワクチンの種類は、自国の承認に拘ることなくWHOの承認を基準とすべき
旅行者への安心の付与	① 全国一律の基準で業界横断的な公衆衛生基準の認証制度の導入 ② 事業者の側に取得するインセンティブが働く仕組みの構築
インバウンド観光の復活	① 段階的に受入地域を拡大していくことも選択肢 ② 範囲を限定してできる地域からの海外旅行者受入れを(例:島しょ部など)管理のしやすいところ ③ 工程表を示すことが、業界・旅行者・自国民へのメッセージとなる



参考3: 2021年11月26日 開催済 運輸政策コロキウムの紹介

第146回 運輸政策コロキウム バンコクレポート ～スタートアップシリーズその2～

ASEANから見る航空 NOW !

～ コロナ禍の先の空の世界 ～

「第2章 タイなどの空港整備の動向」より

第2章 タイなどの空港整備の動向 2. タイ運輸省のインフラ整備計画による主要空港整備

タイ交通インフラ整備計画 (2015年-2022年)

付属リストに掲載されている空港整備

空港名	整備概要
1 メリット空港	空港拡張プロジェクト
2 バンコク空港	空港整備プロジェクト
3 スワンナプーム国際空港	空港開発プロジェクト 滑走路延伸 客貨ターミナルビル建設
4 ドムアン国際空港	空港ビルの拡張 空港整備プロジェクト
5 プークケット国際空港	旅客対応プロジェクト 公共サービス対応プロジェクト 空港整備プロジェクト
6 ウタバオ国際空港	空港ビル建設 新工機整備プロジェクト



タイ運輸省交通政策計画(OTP) パンフレットを基にAIROで作成

「第4章 ASEAN共同体の航空に関する動向」より

第4章 ASEAN共同体の航空に関する動向 2. ASEAN 交通戦略計画

ASEAN共同体の航空に関する取組は、**ASEAN交通戦略計画が基本**。



ASEAN 交通戦略計画 2016-2025 (クアラルンプール交通戦略計画: KLTSP)

戦略的目標

— 航空交通:

- AT-1 効率的で競争力のある航空交通マーケットに向けた取組みの強化
- AT-2 ASEANにおける安全な航空の促進
- AT-3 ICAO基準および推奨慣行(SARPs)に従ったASEANの航空保安の拡充
- AT-4 シームレスなASEANの航空を通じた航空交通管理の効率と容量の拡充
- AT-5 ASEAN地域における効果的で調和のとれた航空および海上の捜索救助(SAR)協力の強化

— 陸上交通:

- 海上交通:
- 持続可能な交通:
- 交通の円滑化:

